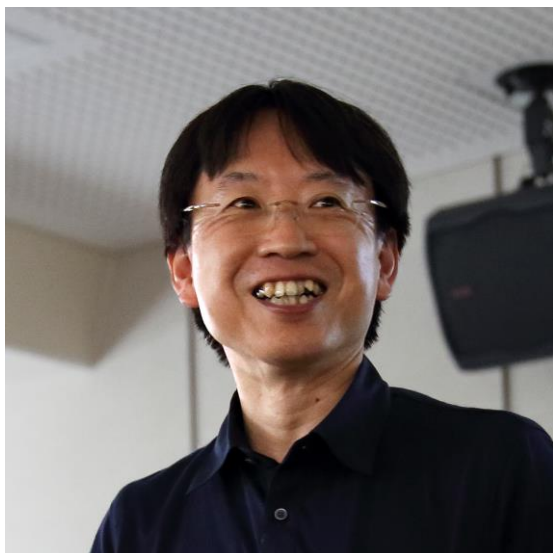


第2回 区民講演会 一部

食べてつながる命、育つ心

第一部 講演 九州大学で大人気の講座「自炊塾」発案・実施の比良松道一准教授をお迎えします。

簡単で便利で安い食事が横行し、孤食が進化する現代。私たちは私たち自身の起源にまで遡って、食のあり方を振り返る必要があるのだと思います。(ブログから)



生態学や進化学をベースとした研究に従事してきた私は、最近、「食のスタイルは進化するのか」ということが気になっていろいろと調べました。未熟な子どもたちを育てるために、一族で家事や仕事を分担し食を分かち合うという行為は、まさに一家団欒の風景。共食スタイルは、私たちが人間であることの証なのです。(インターネットから)

プロフィール:1965 年、福岡県福岡市生まれ。農学博士。福岡県農業総合試験場、九州大学農学部附属農場、同大学院農学研究院園芸学分野を経て現職(持続可能な社会のための決断科学センター・准教授)へ。園芸植物の生態や進化、保全に関する研究に明け暮れていた頃、研究室の女子学生が始めた「弁当の日」に参加し、食育に目覚める。当時、保護者会長を務めていた宗像市立河東小学校学童保育において、即、弁当の日を実践。学童保育所の弁当の日としては全国初の取り組み。共働き家庭や片親家庭を中心とした現代の「共同の子育て」を充実するうえで、弁当の日が大変有効な方法であることを実証した。現在、大学生から小学生、一般市民、子育て支援団体を対象とした食・環境・子育てに関する講義・講演・ワークショップを展開中。近年は、野菜の循環型有機栽培や食文化伝承の研究にも取り組んでいる。九州大で2013年より開講している「自炊塾」は、3ヶ月半で大学生の人生を変えるほどの影響力を持つ教育として注目される。

第二部 食の思い出

エピソード 表彰式 朗読 小出史 氏

日時 平成28年11月13日(日)13:30 ~ 15:30

会場 熊本市現代美術館 アートロフト

資料代 500円 (先着90名)※ 10月20日から受付開始

申し込み先 食べて話してつながろう中央区 応援隊事務局

Tel 096-288-1752 ファックス 096-288-1753

この活動は「平成28年度 中央区まちづくり事業」の助成を受けています。

お礼 食やお弁当についての思い出やエピソードが 23 編集まいりました。ご協力ありがとうございました。(記事は昨年度の表彰作品から)

数年前、近所にAさんというおばあちゃんが住んでいらした。杖を突いておられたので、痛みや日常生活の不自由さがあったからだろう。Aさんは少し気難しい方だった。

どういいうきさつだったか忘れたが、町内会のお手伝いをしていた私は数名の奥さんたちとAさんから「だこ汁」の作り方を教えてもらうことになった。約束の時間にAさんの所に行く。台所はかつおぶしと椎茸のだしのおいでいっぱい、鍋には里芋や大根、人参、椎茸、牛蒡などがたっぷり煮えていた。そして、その横にはもう捏ねた大きなだこの生地が置いてあった。その生地をさらに中指くらいの細長い大きさに丸め、しばらく寝かせた後で鍋に落としていくのだ。

「よく見て、最初は長く、薄く伸ばして」途中で干切れたり厚くなったりしてなかなかうまくいかない。

「見とってらん、じょうちゃんたい。」

Aさんの背筋はしゃんと伸び、別人のようである。

「伸ばしたら、真ん中からさつと裂いて輪にする。」

輪になった薄いきしめんのようなだこはすぐに鍋に落とされた。100個以上あった細長いだこは、みんなで笑ったり、しゃべったりしながら伸ばしていったので、あっという間に薄いだこになり鍋に入れられた。

「たので、あつという間に薄いだこになり鍋に入れた。」

煮えるのを待ちながら、里ではだこ汁はじょうちゃんして作つたたい。

「私の里は四国だもんね。その日Aさんは始終笑顔だった。

初めて聞くAさんの故郷の話だった。しゃべったりすると人と人の距離はあ一緒に料理を作ったり、食べたり、しゃべったりする。その場面は永く記憶に残ると思う。私もある日Aさんと食べただこ汁の味とAさんの楽しそうな顔はずっと忘れないだろう。」

賞金総額 100,000 円

表彰式 平成28年11月13日(日) 13:00~15:30

区民講演会 講演 食べてつながる命 育つ心

講師 比良松 道一 九州大学准教授

※司会をしていただく 小出史氏の 朗読もあります。